

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390200859		
法人名	社会福祉法人 全仁会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	岡山県倉敷市白楽町40番地		
自己評価作成日	平成27年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372500094-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372500094-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル		
訪問調査日	平成27年2月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

- ・倉敷平成病院認知症疾患センター涌谷Dr(センター長)が不穏や異常行動に対して常時相談を受けて下さる。又、毎月第1・3土曜日にグループホームで利用者の面接や問題解決のカンファレンスを涌谷Drを中心に実施している。
- ・看護との連携が常にとれ、血圧や発熱などの急変時相談や対応が早期に出来る。
- ・地域との交流を図り、季節行事への参加や近隣の理髪店やスーパーを日常的に使っている。
- ・外に出る機会をたくさん作り、四季を肌で感じてもらっている。(花見・外食・音楽会・初詣等)
- ・屋上菜園で入居者が種をまき、採れた野菜で調理をし皆さんで召し上がっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

まず利便性に優れている。具体例として半径1km以内に、大型スーパー・病院・保育園・小学校等が点在している。入居者は職員の柔軟な対応と、個々の思いや暮らしの意向を汲んでもらい、穏やかに暮らしている。季節毎に初詣、梅・桃・桜の花見、紅葉狩り、音楽会等に出掛け、気分転換を兼ねて外出を楽しんでいる。建物内の各階にサービスが異なる事業所を設け、行事等お互いに協力しながら実施している。今後の目標として「ドライブ等、外出の機会を増やし、生活に変化をもたらしていく支援をしていきたい。」と管理者は意欲を示されていた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が作った家訓があり、それを基に利用者対応を行っている。	職員が考案した家訓を、誰もが目に付くりビングに掲示し、行動規範としている。ピースガーデン四施設を一つの事業所と捉え「ひと、笑顔、輝いて」を目標に、日々のケア実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物・散髪・外食で地域のお店を利用している。またボランティアの受け入れを積極的に行っている。	近隣に買い物、散髪、外食に出掛け、地域と繋がりを持ちながら生活出来る様支援している。専門医の認知症講習会を開催し、認知症への理解を図り、地域への協力が得られる様努めている。	散歩や買い物等地域に出掛ける事は多いが開設間もない為、地域への認知度が低い。保育園や幼稚園、地域の方が事業所を理解してくれる工夫をし、地域の拠点となって欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所側のスーパーや理容店等に、時には異常な行動や意味不明の発言のあることを理解していただくと共に、徘徊による不明時にも協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表や利用者代表に参加頂いているが、ほぼ同じ顔ぶれになり意見が減ってきた。	年6回、地域包括・民生委員・保健師・家族等が参加し、運営推進会議を開催している。運営内容や行事活動を報告し、話し合いが行われ、質疑応答にてサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市外の方の入所や生保の方の入所等、運営や規定の再確認や相談を介護保険課の指導を受けながら取り組んでいる。	運営推進会議には行政が参加しており、定期的にサービスの実践内容を報告出来る機会があり、連絡事項のお知らせがある。困難事例に対する相談等、事業所の取組みを伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒が多い利用者に対し、職員の対応が困難な時のみ身体拘束をしたが、ケースミーティングを重ね対応方法を検討し1回のみで廃止した。	身体拘束の必要がある利用者の行動を分析し、対応の検討をしながら拘束しないケアに努めている。自由な生活を重視し、見守りに努め、拘束が必要ない穏やかな生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護業務を早く遂行しようと食事時に、口頭で急がせたり介護者のペースでの食事介護も一種の虐待と考え指導したことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後継人に利用者の普段の生活について定期的にお知らせしている。将来的なことも具体的に話し合っている。後継人制度の勉強会にも参加し、伝達講習を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は複数人で立ち会って頂き、説明時間も余裕を持ち、質問についても時間をかけ納得されるようお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は利用者を含め、意見・要望について話し合いを持ち、運営に活かしている。	運営推進会議や行事活動時の写真を掲載した「のぞみ便り」と、本人の様子を記載した手紙を家族に郵送し、意見を聴く機会を設けている。行事活動の際に、利用者の様子や反応を観察して、今後の運営に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほぼ毎月行うユニット会議やケースカンファレンスを通じ、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	月毎のユニット会議で意見や提案を出し、代表者が協議する等、職員の意見を聴く機会を設けている。自己評価を基に人事考課を行い、働き甲斐のある職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や賞与については年2回賞与時に、評価表によって自己評価・上司評価を反映し、努力や実績に応じた配分を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じ施設内研修や、全仁会グループ研修をおこなっている。又外部研修についても積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強会等を通じて知り合い、運営推進会議の充実についてアドバイスをもらったり、規定の解釈等で教えを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報や生活背景を把握し、不安な事・困る事を先に察知し対応している。 又、仲間作りの支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の問題に双方で十分な話し合いを持ち、解決していくと共に良い関係作りを実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今必要なもの」を時間をかけしっかり対話することで感じ取り、求められている事を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の食事やお茶の時間・団欒も、ともに同じ場所で過ごすことで、家族の様な関係が作られてきた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠となりがちな家族には、行事予定を知らせたり、相談等の理由をつけ来所していただき、施設・家族・本人の3者の良好な関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に交流のあった方々と、引き続き関係を保つ為に訪れやすい環境作りや行事への招待など 関係が維持できるよう配慮している。	家族や知人との関係を重要視し、行事等に招待して面会の機会を増やしている。初詣や美観地区へ紅葉狩り、総社の安養寺に梅を見に出掛け、理美容店へ家族と一緒にいき、馴染みの場所や関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は気の合う者同士で過ごすのが、全体での関わりとしては、朝・昼・夕のラジオ体操やストレッチ体操等で、全員で関わる時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で亡くなった家族の方が、その後もおとずれてくださったり、新規の入居者の紹介を頂く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方は基本的には自由であるが、活動が乏しい方にはいくつかの選択肢のある、アプローチをかけている。	本人とのコミュニケーションにて暮らし方の希望を聴き取ったり、家族の要望、本人の生活歴・趣味・能力等を勘案して意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の説明や話し合いでは、本人・家族から今までの生活歴や、背景をしっかりと把握し、利用者・家族の要望に沿ったサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には、団体行動でなく個々の趣味や能力に応じ、毎日を過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・施設が一体となってプランを作成し、作成後は本人・家族に確認を取っている。モニタリングは3～6か月で実施している。	本人の状態を基に必要とすべき課題を捉え、ケアプラン作成時に必ず活かす様にしている。モニタリングは3～6ヶ月毎に実施し、サービスの進捗状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADLや体調の変化には記録、申し送りを十分行い情報の共有を図り、ケアプランの見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の病態や個々を知る事で、ニーズの把握や対応が容易となり、ケアの工夫で柔軟な支援・多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方のボランティアの参加があり、行事開催時の見守りやプログラムを実施していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は基本的に家族の希望優先であるが、受診科によってはNsに相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師がかかりつけ医なので、事業所と密な連携が図られている。看護職と協力し、異常の早期発見に努め、健康管理や適切な医療を受けられる支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚トラブルや便秘等日常的に相談・援助を受けており、現場職員の心強いパートナーとなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は担当Drや病棟の相談員と連携を取り、早期治療・早期退院をめざし協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	末期癌による終末期の方を昨年見送ったが、本人・家族の要望を事前に十分話し合っていた為、スムーズに取り組みができ感謝していただいた。	医療が必要となれば重度化とみなし、今後の方針を話し合う。また、入居時に特別養護老人ホームの申込みをしてもらい、医療が必要になった場合の対策を事前に行っている。本人や家族の希望があれば終末期の支援もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設から2年間で呼吸停止等の急変は数件あったが、いずれも適切な対応ができ障害も残らず退院し施設へ再入所となった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設(デイ・特養・ショート・GH)全体で年2回避難訓練と消火訓練を実施した。防災については倉敷市の防災マップを使用し伝達講習を実施。	年2回、複合施設合同で避難・通報マニュアルに基づき避難訓練を実施している。倉敷市のハザードマップに従い、災害時の伝達講習をし、飲み水等災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	団体の中での行動や言動が異常な場合や、間違いであっても否定せず受け入れている。また友達言葉や命令口調にならぬよう気を付けあっている。	声掛けを工夫して本人の希望や思いの表出を図り、自己決定の支援に努めている。本人のペースを崩すことなく能力に合わせた支援に努めている。徘徊者による入室の間違いを防ぐための対策を講じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が主導するのではなく、個々が決定できるよう表現を工夫したり、希望を叶えるための選択肢を多く用意し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己の希望が表現できない方が多いが、生活歴や背景を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のお化粧の手伝いやチェックをしたり、外出時にはお気に入りの服を進めたりと、おしゃれも援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に2回程度食事に関し聞き取り調査をし、メニューに反映している。下膳は可能な方にはお願いしている。	厨房での食事作りとなっているが、利用者の嗜好調査を行い、季節感が味わえるメニュー作りをしている。菜園で収穫した野菜を各ユニットで調理し、旬の美味しさを楽しんでいる。	ご飯が炊けた匂いがする家庭的な雰囲気を目指しているようなので、炊飯や汁物等の匂いが充満するユニットとなることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分の確保は毎日チェックしており体重の増減も管理し健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは実施している。夜間入れ歯は外し、洗浄剤を使用し脱臭や清潔の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それぞれの時間を見計らい、排泄・排尿を促している。夜間以外はほぼ全員トイレで排尿している。	「トイレ」と文字を大きく表示し自立を促している。座位が取れる利用者はトイレでの排泄を支援している。個々の排泄パターンを把握し、随時にトイレ誘導を行っている。水分摂取や運動を取り入れ、体調管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のサイクルを知り、適度な水分摂取や腹部の運動を取り入れるなど、便秘の予防をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴であるが、希望があれば可能な限り対応している。時間は(30分～40分)とゆっくりとある。	本人の意向を確認し、入浴の誘導をしている。本人の希望があれば可能な限り入浴に応じている。夏はシャワー浴を取り入れ、足浴をしたり、冬至になれば柚子湯を行い、入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は基本的には個々にお任せしている。音や光の調節を行い眠りやすい環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている方については、目的に沿った効果があるか否か判断したり、受診時はDrにADLや行動の変化について情報提供を行い、薬の相談や量の調整をお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事や季節の行事を大切に実施している。又、近くに食べに行ったり買い物に行くなどの援助をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行きたい方、帰宅したい方、希望があれば可能な限り実施している。	初詣に出かけ、ドライブを兼ねて季節毎に吉備寺へ梅・桜・桃の花見や笠岡ベイファームのひまわり見学に行く。気候が良くなれば屋上の庭園にて、ティータイムやお弁当を食べ、外気浴を楽しんでいる。利用者が希望する散歩・音楽会・買い物の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食の機会を作っており、人にもよるが多い方は2~3/W利用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや、要望があれば家族への電話も行っている。年賀やはがきも援助は必要だが利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔と安全に特に留意している。季節の花を活けたり植物を飾り癒しの工夫をしている。	壁に行事等の写真を貼り回想法に努めている。居間に季節の花を飾り、テレビの前にソファを置き、家庭的な雰囲気の中、居心地良く過ごしている。気心がしれた仲間同士が楽しく話せる様、配席の工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居ごちの良さを重要視し、席の配置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・家具等基本的には家で使っていたものを持ち込んで頂き、自宅と同じ空間作りを目指している	居室の入口に表札を掲げ、他室と間違えて入室しないようにしている。神棚・テレビ・家具・机・椅子・写真などを自由に置き、自分好みの部屋作りをしている。床に余分な物を置かず、歩行時の安全対策が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一で自立した生活が可能な様に、動線や配置を考慮したテーブルや家具の工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390200859		
法人名	社会福祉法人 全仁会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	岡山県倉敷市白楽町40番地		
自己評価作成日	平成27年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372500094-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372500094-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル		
訪問調査日	平成27年2月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>倉敷平成病院認知症疾患センター湧谷Dr(センター長)が不穏や異常行動に対して常時相談を受けて下さる。又、毎月第1・3土曜日にグループホームで利用者の面接や問題解決のカンファレンスを湧谷Drを中心に実施している。</li> <li>看護との連携が常にとれ、血圧や発熱などの急変時相談や対応が早期に出来る。</li> <li>地域との交流を図り、季節行事への参加や近隣の理髪店やスーパーを日常的に使っている。</li> <li>外に出る機会をたくさん作り、四季を肌で感じてもらっている。(花見・外食・音楽会・初詣等)</li> <li>屋上菜園で入居者が種をまき、採れた野菜で調理をし皆さんで召し上がっている。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が作った家訓があり、それを基に利用者対応を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物・散髪・外食で地域のお店を利用している。またボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所側のスーパーや理容店等に、時には異常な行動や意味不明の発言のあることを理解していただくと共に、徘徊による不明時にも協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表や利用者代表に参加頂いているが、ほぼ同じ顔ぶれになり意見が減ってきた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市外の方の入所や生保の方の入所等、運営や規定の再確認や相談を介護保険課の指導を受けながら取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒が多い利用者に対し、職員の対応が困難な時のみ身体拘束をしたが、ケースミーティングを重ね対応方法を検討し1回のみで廃止した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護業務を早く遂行しようと食事時に、口頭で急がせたり介護者のベースでの食事介護も一種の虐待と考え指導したことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後継人に利用者の普段の生活について定期的にお知らせしている。将来的なことも具体的に話し合っている。後継人制度の勉強会にも参加し、伝達講習を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は複数人で立ち会って頂き、説明時間も余裕を持ち、質問についても時間をかけ納得されるようお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は利用者を含め、意見・要望について話し合いを持ち、運営に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほぼ毎月行うユニット会議やケースカンファレンスを通じ、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や賞与については年2回賞与時に、評価表によって自己評価・上司評価を反映し、努力や実績に応じた配分を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じ施設内研修や、全仁会グループ研修をおこなっている。又外部研修についても積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強会等を通じて知り合い、運営推進会議の充実についてアドバイスをもらったり、規定の解釈等で教えを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報や生活背景を把握し、不安な事・困る事を先に察知し対応している。 又、仲間作りの支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の問題に双方で十分な話し合いを持ち、解決していくと共に良い関係作りを実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今必要なもの」を時間をかけしっかり対話することで感じ取り、求められている事を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の食事やお茶の時間・団欒も、ともに同じ場所で過ごすことで、家族の様な関係が作られてきた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠となりがちな家族には、行事予定を知らせたり、相談等の理由をつけ来所していただき、施設・家族・本人の3者の良好な関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に交流のあった方々と、引き続き関係を保つ為に訪れやすい環境作りや行事への招待など関係が維持できるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は気の合う者同士で過ごすのが、全体での関わりとしては、朝・昼・夕のラジオ体操やストレッチ体操等で、全員で関わる時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で亡くなった家族の方が、その後もおとずれてくださったり、新規の入居者の紹介を頂く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方は基本的には自由であるが、活動が乏しい方にはいくつかの選択肢のある、アプローチをかけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の説明や話し合いでは、本人・家族から今までの生活歴や、背景をしっかり把握し、利用者・家族の要望に沿ったサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には、団体行動でなく個々の趣味や能力に応じ、毎日を通せるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・施設が一体となってプランを作成し、作成後は本人・家族に確認を取っている。モニタリングは3～6か月で実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADLや体調の変化には記録、申し送りを十分行い情報の共有を図り、ケアプランの見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の病態や個々を知る事で、ニーズの把握や対応が容易となり、ケアの工夫で柔軟な支援・多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方のボランティアの参加があり、行事開催時の見守りやプログラムを実施していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は基本的に家族の希望優先であるが、受診科によってはNsに相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚トラブルや便秘等日常的に相談・援助を受けており、現場職員の心強いパートナーとなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は担当Drや病棟の相談員と連携を取り、早期治療・早期退院をめざし協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	末期癌による終末期の方を昨年見送ったが、本人・家族の要望を事前に十分話し合っていた為、スムーズに取り組みができ感謝していただいた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設から2年間で呼吸停止等の急変は数件あったが、いずれも適切な対応ができ障害も残らず退院し施設へ再入所となった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設(デイ・特養・ショート・GH)全体で年2回避難訓練と消火訓練を実施した。防災については倉敷市の防災マップを使用し伝達講習を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	団体の中での行動や言動が異常な場合や、間違いであっても否定せず受け入れている。また友達言葉や命令口調にならぬよう気を付けあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が主導するのではなく、個々が決定できるよう表現を工夫したり、希望を叶えるための選択肢を多く用意し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己の希望が表現できない方が多いが、生活歴や背景を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のお化粧の手伝いやチェックをしたり、外出時にはお気に入りの服を進めたりと、おしゃれも援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に2回程度食事に関し聞き取り調査をし、メニューに反映している。下膳は可能な方にはお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分の確保は毎日チェックしており体重の増減も管理し健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは実施している。夜間入れ歯は外し、洗浄剤を使用し脱臭や清潔の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それぞれの時間を見計らい、排泄・排尿を促している。夜間以外はほぼ全員トイレで排尿している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のサイクルを知り、適度な水分摂取や腹部の運動を取り入れるなど、便秘の予防をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴であるが、希望があれば可能な限り対応している。時間は(30分～40分)とゆっくりとてある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は基本的には個々にお任せしている。音や光の調節を行い眠りやすい環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている方については、目的に沿った効果があるか否か判断したり、受診時はDrにADLや行動の変化について情報提供を行い、薬の相談や量の調整をお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事や季節の行事を大切に実行している。又、近くに食べに行ったり買い物に行くなどの援助をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行きたい方、帰宅したい方、希望があれば可能な限り実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食の機会を作っており、人にもよるが多い方は2~3/W利用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや、要望があれば家族への電話も行っている。年賀やはがきも援助は必要だが利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔と安全に特に留意している。季節の花を活けたり植物を飾り癒しの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居ごちの良さを重要視し、席の配置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・家具等基本的には家で使っていたものを持ち込んで頂き、自宅と同じ空間作りを目指している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一で自立した生活が可能な様に、動線や配置を考慮したテーブルや家具の工夫をしている。		